

平成州紙



おりおりの記

## スコットランドからは遠いロンドン

公益財団法人 国際金融情報センター  
前理事長

大場 智満

5月の英国総選挙では、メディアによる保守党、労働党の接戦予想に反して、保守党が単独過半数を獲得した。またスコットランド国民党が、スコットランドの59議席のうち56議席を獲得して第3党に躍進した。

第2期キャメロン政権の重要課題は、スコットランドの自治権の拡大とEU離脱の国民投票の実施であろう。

スコットランドの独立については、2014年9月に住民投票が行なわれて大へんな関心と呼んだが、独立反対が55パーセントになり、否決されている。

筆者には1996年に大蔵省OBのS君を伴ってエディンバラを訪れた時の印象深い思い出がある。一夕、同行者一同でスコットランド名物のハギスを食べに出かけた。ハギスは羊の内臓を丸く焼き上げたものだが、食べる前に一種おごそかな儀式がとり行われる。それに先き立って、レストランの店主が各国からの来客を次々に紹介した上、「世界で一番遠い国の日本からハギスを食べに来てくれた」と我々一行を紹介した。そして最後に、「極東の日本よりもっと遠いロンドンからわざわざ来て下さったお客様。」と言ってイングランドの人々を紹介したので、広いレストラン中が大笑いになった。

1707年にイングランドと合併したスコットランドがロンドンから遠いものになったのは、北海道油田が見つかりその権益をイングランドが手中に

した頃ではないだろうか。

サッチャー首相の回顧録によれば「スコットランドが独立を決意しても、イングランドの政党、政治家はそれを妨害しない

だろう。ひどく残念に思うことは確かだが」とある。また「スコットランド人がしてはならないのは、連合王国にとどまるために他のメンバーの意思を無視して自分の言い分ばかりを主張することである。」とも言っている。保守党はこのサッチャー首相の主張やサゼッションを参考にしてスコットランドへの権限移譲問題を考えているのだろうか。

なお、EU離脱の国民投票問題は、結果次第では世界にショックを与えかねないような問題だが、スコットランド国民党もキャメロン首相と同じく加盟維持とみられる。しかしドイツ、フランスが主導する政治・経済統合の深化とは一線を画しているのがスコットランドであり、ロンドンである。

アダムスミスや詩人のスコット、加えて「螢の光」など多くの民謡で、我々日本人に身近なスコットランドである。その行方を注視していきたい。

